

愛郷
無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2014年02月25日号 NO.452

写真提供：大仙市

Subject：訓書滋身 心震える2冊

◆【文明の渚～私たちは、これまでと同じようには生きられない】

岩波ブックレットNo. 864

池澤夏樹著 ISBN978-4-00-270864-5 500円+税

詩人であり、柔らかに繊細な文章ながら、鋭く時代を見抜く目を持った作家である池澤夏樹さんが2012年8月に長野県で開催された【信州岩波講座】で講演した内容をまとめた本。3.11の一週間後から夏過ぎまで、私たちは岩手県山田町・大槌町を皮切りに毎週2回のペースで物資提供や炊きだしの支援活動を続けていました。あまりの惨状、厳しい避難生活、物資不足に直面し、支援を終えて大曲へ帰ってくると、メンバーは疲れた体にむち打って人間の業、人生の無常、本当の支援とは何かを深夜まで激論を重ね、時には言い争いになる程でした。それほど私たちも真剣に人間とその人生を深く考えさせられました。そのとき以来、ずっとのどの奥に引っかかったままになっていた何とも言葉に出来ないものがあります。私はこの夏樹さんの講演を読むことで、腹までストーンと落ちるモノを感じることができました。被災地の支援活動に一度でも参加した方はぜひ読んで欲しい本です。

◆【本の窓 3・4月号】 小学館

雑誌 08201-4 100円

様々な新著・名著を紹介すると共に、毎号独自の対談・小説・コラム・エッセーなど、わずか100円の小さな雑誌ながら、中身は毎号とても深いものがあります。現在発売されている3・4月合併号の巻頭【菅原文太×佐藤栄佐久（前福島県知事）】が素晴らしい対談です。「原発行政が壊したうつくしまふくしま」佐藤さんは5期18年福島県知事を務め、国策で進められる原発に常に厳しく接してきた志の人。収賄罪で有罪判決を受け失職しましたが、私には演出された疑獄事件としか思えません。一方の菅原文太さんは、【ほとんど人力】（小学館）という本で様々なジャンルの17名の強者達との対談を披露していますが、飛耳長目でありながら一本芯が通った人であり、単なる俳優とは一線を画したもの凄いオジサンです。最近の【軽トラ野郎】なんてCMは全くのイメージ違いな御仁なんです。

◆【ほとんど人力】 小学館

菅原文太著 ISBN-13: 978-4-09-388290-3 1,500円+税

対談相手は：金子兜太(俳人)、樋口陽一(憲法学者)、堀田力(弁護士)、相場英雄(作家)、大石又七(第五福竜丸元乗組員)、中村哲(ペシャワール会現地代表)、大田昌秀(元沖縄県知事)、丹羽宇一郎(前駐中国大使)、副島隆彦(民間人国家戦略家)、古賀茂明(元経産省)、松島令(作家・経済評論家)、関野吉晴(探検家・医師)、野口勲(野口のタネ代表)、西部邁(評論家)、黒田征太郎(イラストレーター)、吉田敏浩(ジャーナリスト)、鳥越俊太郎(ニュースの職人)。彼らとの丁々発止の対談は常に本音。